

事故に遭わない・起こさないために

冬型交通事故に 気をつけよう

11月に入り、まちが雪で覆われる時期が間近に迫っています。

タイヤ交換はお済みですか？冬用の装備は車載していますか？夏より危険が多い冬道を安全に往来するために、ドライバーも歩行者も意識を冬型に切り替えましょう。

問くらし安全課くらし安全係 ☎ (26) 7736



冬型交通事故の4大要因

冬期間は、路面状況や視認性などさまざまな面で運転がしにくい環境となり、その分交通事故の危険性も高まります。

①スリップ

冬型事故の大半を占める要因で、冬用タイヤでも容易に発生します。積雪路面や凍結路面は、ブレーキを踏んでから停止するまでの「制動距離」が、乾燥路面の3～5倍近く伸びます。その結果、交差点での追突やオーバーランにより、人身事故が発生します。



②視界不良

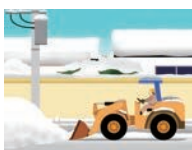
「自分は大丈夫」と思っている、一瞬の油断や慢心で起こってしまうのが交通事故です。夏以上に周囲の環境に気を配り、事故発生を防止しましょう。

強風による地吹雪や暴風雪が発生すると、雨とは比較にならないほど視認性が悪くなり、数m先ですら視認が困難になります。雪に覆われた道路は中央線が見えないため、視界不良で車線を見誤ると対向車との正面衝突が発生します。



③道路わきの雪山

道路わきの雪山は、除雪作業で必要に応じて積まれます。特に交差点付近の雪山は、横断しようとする歩行者を完全に隠してしまうことがあります。夏に比べてはるかに死角が多くなるため、急な飛び出しなどによる衝突事故が発生します。



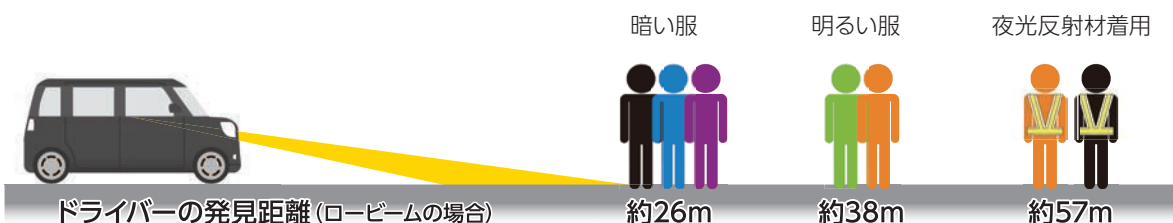
④わだち

路面を除雪しないまま車の往来が続くと、道路上に「わだち」が発生します。わだちにハンドルを取られると、容易に車のコントロールを失い、歩道や対向車線に飛び出す危険があります。



⚠ 歩行者は、特に夜間に気をつけよう

- ▶ 明るい服装をする …服の色だけで、停止距離に10m以上の違いが出ます。
- ▶ 夜光反射材を付ける …夜光反射材は、約57m先でも光を反射します。



あると便利な`冬用、道具

北海道の冬は、命に危険が迫るほどの厳しさをみせるときがあります。暴風雪による視界不良や歩行・走行困難、低体温症、吹き溜まりによる立ち往生などです。

●基本常備品

- ▶長靴
- ▶手袋
- ▶スノーブラシ



→手袋は、作業ができる丈夫な予備手袋があると便利です。

●寒さ対策に

- ▶毛布
- ▶防寒着
- ▶アルミブランケット



→アルミブランケットは薄くて軽いため、かさばりません。3～4個用意しておけば、ほかの人にも回せます。

そのような天候に遭遇したときや、事故に巻き込まれた場合に、車に載せておく役に立つグッズを紹介します。冬が深まる前に、準備しておきましょう。

●立ち往生、バッテリー切れ対策に

- ▶けん引ロープ
- ▶スコップ
- ▶ブースターケーブル
- ▶スノーヘルパー



→スノーヘルパーは、タイヤが雪に埋まったときに、雪とタイヤの間に挟んで脱出するための道具です。けん引ロープも、スタックした車を引っ張って救出するために使います。道路での立ち往生は非常に危険なため、雪を掻きだすスコップと合わせて載せておく安心です。

車と人、互いにできる対策を

ドライバーができること

▶タイヤの交換は早めに

夏タイヤで凍結路面を走ると、車の制御が非常に難しくなります。早めにスタッドレスタイヤに交換しましょう。

▶「冬に危険な場所」を再確認しよう

よく凍る橋の上やトンネルの出入口、雪山で視界が悪くなった交差点、日陰でいつも凍っている場所など、行動範囲内の危険箇所を再確認しましょう。

▶出掛ける前に天気予報、道路情報をチェック

朝天気が良くても、その後崩れて猛吹雪に巻き込まれてしまうことがあります。天気予報や道路情報は常に確認しましょう。



歩行者ができること

▶道路での転倒、スリップ事故に注意

冬の路面は、気をつけていても滑ります。特に交差点は、車が発進と停止を繰り返すので滑りやすくなります。横断前も横断中も、周囲の安全と足元に注意しながら歩きましょう。

▶自分の存在をドライバーに知らせよう

冬は、道路わきの雪山や暴風雪によるホワイトアウトなどで歩行者が見えにくくなります。目立つ色や、ドライバーが気づきやすい服装を心がけましょう。

▶除雪車に注意！

道路付近は、除雪車が作業している可能性があります。非常に危険ですので、死角になっている場所は特に気をつけましょう。除雪作業は大きな音が出るので、音で判断することもできます。



**だれでも事故の加害者・被害者になる可能性があります。
各自で対策に取り組み、事故の防止に努めましょう。**